

社会福祉法人松溪会 2018(平成30)年度事業報告

理事長 武 居 敏

社会福祉法人松溪会の2018(平成30)年度事業について以下のように報告します。

《法人としての中期的な事業方針》

法人としての中期的な事業方針である以下の4項目に基づいて事業を進めましたのでご報告します。

① 保育サービスの質の向上

「保育所保育指針、認定こども園教育保育要領」「放課後児童クラブ運営指針」に沿った保育・教育の実践

国、市の方針等の環境変化に応じた園の経営、行政に向けたタイムリーな情報発信、保護者への積極的な子育て支援・保育環境の整備・環境を守る取り組み

② 職員の確保・育成

職員の働きやすい環境づくり、待遇の改善、計画的な研修、採用関係等対外的にタイムリーな情報発信

③ 地域への貢献

「地域における公益的な取組」を含む地域貢献活動の充実、地域に対するタイムリーな情報発信、環境を守る取り組み

④ 法人、事業基盤の強化

経営の把握と無駄の排除、国、市の方針等の環境変化に応じた園の経営、法人組織の強化

《法人全体の2018年(平成30)度事業報告》

- 社会福祉法人として大きな制度改革であった社会福祉法改正は一段落し、本年度の特筆事項は、2017年度決算より「財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援」を受けることとしました。現行制度では法人の財政規模的には、公認会計士による監査導入までは受けなくてもいい(総収入30億円以上が対象)ので、外部の専門家によるチェックを受けることで計算書類の適正性を確保するためのものです。制度改革のもう一つのポイントである「地域における公益的な取組」については、全国にはまだ取り組めていない法人も多数ある中で、当法人では制度改革当初から取り組んでおり、本年度も引き続きおかさきこども園では「こども食堂」「びよびよクラブ」、市野与進

こども園では「親子ふれ愛遊び」「ベビーマッサージ」「助産師相談会」等の事業に取り組んできました。

- 松溪会の両こども園の所在地である浜松市、湖西市の保育事業の施設整備は進んでいるため、定員数は年々増えていますが、いまだに両市ともに待機児童がいて、2018年4月の数は浜松市が97人、湖西市が5人でした。当面の2つのこども園の経営については、人材の確保についての不安要素はありますが、職員の処遇改善なども順調に進み、当面のところ大きな問題はないと言ってよいでしょう。しかし待機児童は減少傾向にあることから、いずれ各市内の保育施設は再編成の時期が来るものと思われ、その時期に選ばれ続けるこども園であるための努力を怠りなく続ける必要があります。現在検討を始めているものとして、**おかさきこども園**は近くの市立幼稚園の再編に係を持っていくこと、**市野与進こども園**は隣地の購入により、当面は園庭と駐車場の確保をして、新たなニーズに対応していくための次期の計画を検討していきたいと考えています。

- 2019年度4月の職員採用は、法人全体で新卒者8名（保育教諭7名、栄養士1名）と非常勤から正職員への身分変更4名の計12名でした。しかし、退職者との入れ替えが主で楽観できる状況ではありません。今、全国の社会福祉業界にとって最大の課題は人材確保で、保育教諭も例外ではありません。当法人も本年度事業計画の中で人材確保を重要な課題と考え様々な施策を進めてきました。特に広報活動の見直しです。今までの広報活動は各事業の利用対象者への広報を中心に考えてきましたが、採用活動における広報の重要性が認識されるようになり、最も効果的な素材であるホームページの見直しを行いました。両園の職員全体を対象にしたアンケート結果をもとに現在ホームページの変更に取り組み、サービス利用希望者、地域住民、就職希望者、と対象を分け、特に就職希望者や学生に対する内容を充実しました。今後も順次見直しを続けていきます。

職員の待遇改善についても実施しています。本年度も処遇改善加算Ⅰ、Ⅱを実施しました。賞与は法人として人事院勧告に0.1か月上乗せして、本給の4.55か月分を支給しました。賞与月数、年間休日数や有給休暇の取得数は、保育業界の統計比較でも上位に位置します。しかし、非常勤職員やパート職員の時間給については、他産業との比較で見劣りするようになっていました。本年度最低賃金の改定が実施されたことを契機に見直しを行い、非常勤職員・パート職員の給与を2019年度から改定することとしました。

- 財政的には経常増減差額が昨年度の2697万円を20%下回る2155万円でしたが、法人全体ではほぼ順当な経営状態でした。市野与進こども園と放課後児童健全育成事業の経営状況がよかったことがそのプラス要因と言えます。

一方、先に述べたように、近年職員の処遇改善に取り組んできましたが、その結果人件費が徐々に増加したことがマイナス要因だと分析しています。両園共に、近年施設の改築や増築を実施したことから、社会福祉充実残額は 0 でした。順次将来の改築等の費用を確保していく必要があります。

各事業の状況

- **おかさきこども園、市野与進こども園**両園共に、保育所から「幼保連携型認定こども園」への移行は順調に進みました。おかさきこども園は本年度より始まった 1 号認定利用者は 2 人であり、市野与進こども園は 2019 年度から 1 号認定を導入する準備をし、当面 2 名の受け入れ予定となりました。
- **おかさきこども園**は特に大きな工事等の事業はなかったものの、休日保育、地元との交流活動や地域貢献活動の効果により、湖西市内で利用希望の多い信頼されるこども園として定着しています。定員 126 人に対して年間充足率は 119.2% でした。さらに、日々の保育の質の向上や地域社会との連携をすすめる、より一層地域から信頼される児童施設にしていきたいと思えます。担当する市の補助金の違い等が原因して、経営的には資金収支計算書でややマイナスの決算となりました。
- **放課後児童クラブ秋津**は、本年度より 2 クラスに分け、日々の活動も経営的にも問題なく推移しています。利用希望者も多く 2019 年度申し込みの際は入園をお断りしなければならないような状況でした。ただ、職員の通常の勤務時間は短く、一方で小学校の長期の休みには勤務時間が長くなるように、勤務時間が一定しないことから職員の募集をしても採用が厳しい状況にあります。
- **市野与進こども園**は前年度の増築工事により定員を 180 人とし、徐々に受け入れ人数を増やし最終的に 160 人でした。本年度「教育・保育の質向上」を第 1 の目標に掲げできましたが、その一環として取り組んだ食育が全国のコンクールで優秀賞を頂いたことは大きな励みとなりました。前年度の増築工事の一環として、本年度に持ち越したウッドデッキの新設と門周辺の改修工事を実施しました。また、本年度事業として園の駐車場と園庭の確保を目的にして、園の西側の土地（田 2,015 m²）を購入するご承認をいただき、本年度土地の購入と造成工事を進める予定でしたが、農地転用許可が 6 か月遅れました。このため購入と造成工事は 2019 年度事業に持ち越すこととなり、4 月に土地の売買契約を実施しています。各々の事業の詳細は別にご報告します。

